

第4号

ニ通算54号ニ

(11月号)

2017年11月1日

発行:滝田衛

七里が丘子ども若者支援研究所

今を生きよう みんな OK!



バンガー大学

イギリスに24日間行ってきました。ロンドンや湖水地方をウロウロ? そして2週間弱バンガーで大学の授業を見学し先生方にインタビューさせていただきました。同時に考えていた日本、そして子ども若者のこと…帰ってきたら48回衆議院選挙?お読みください。バンガーでお世話になりました皆様に感謝申し上げます。

《コーディネーター:Trinity Foundation Programme 砂田恭美理事長,通訳&レストラン EAST: Driver 尚栄, BongarUniversity School of Psychology:Dr Fay Short, Dr Mihela Erjavec, Dr Simon Viktor, カウンセラー:Dave,留学生:伊礼杏奈、大学院留学生:工藤裕美 ※敬称略》

民主主義の心身をつくるために

この国に「与えられた」のは日本国憲法ではない、民主主義が「与えられた」。

1947年5月3日、「理想」に近い日本国憲法が成立した。

1951年9月8日、日米安全保障条約でこの国は解放、あの国の“新”植民地となった。

与えられた民主主義で与えられた日本国憲法は育たず、あの国に“隷属”する。

だから、70年経っても「与えられた」民主主義は整わない。

だから、この人は「大日本帝国憲法」回帰を“民主的”独裁者として実現しようとする。

そして、この人はあの国のあの人の“判断”に全てを委ねる。“下僕”として…。

オキナワもこの国の基地も、経済そして文化も、ゴルフも。

北の“脅威”? あの人の「傘」に、この人は“シッポリ”と入ってしまう。

そもそも北の“脅威”は本当なのだろうか?

そもそも“脅威”は、あの国ではないか?

改めて振り返ろう、はるか遠い1910年「日韓併合」を。

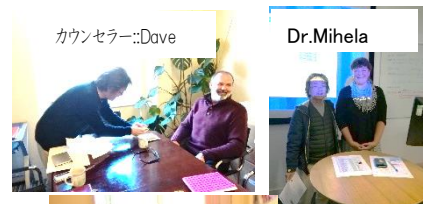
北(半島)の人の名前、言語、財産を奪った、あの時を。

以来、この国に北(半島)の人が長いこと暮らしている。

この国に帰化した人も北(半島)の籍の人もある。

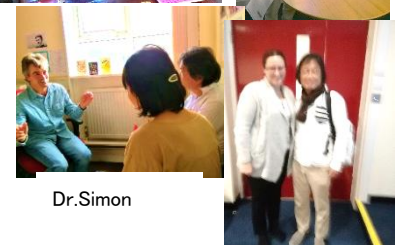
今も様々な業界で北(半島)の人たちに頼っている、この国。

北(半島)の人たちは税を払うが、参政権はないままだ。



カウンセラー:Dave

Dr.Mihela



Dr.Simon

Dr.Fay

そして…北の人の姿を72年前のこの国の姿に重ねる。

72年前ABCD包囲網、資源をあの国に依存していたこの国が、

「ニイタカヤマノボレー208」で、あの国のパール○○○○を奇襲した。

この国の軍部・経済人と「天皇制」の“決断”。

北の人の、今この時の“挑発”と72年の時空を超えて重なる。

72年経て民主主義のない北の人は“異常”?

貧困16%、非正規労働2000万人、過労死自殺多発。この国の実情だ。
拉致の“犯罪”国家、北の人が“異常”！ おかしい！！ 確かにその通り！！
しかし、72年前この国が名前・言語・財産を奪ったことを、北(半島)の人は忘れない。
キム○○に涙し、集団行動と円舞で讃える北の国は“脅威”？
この国も集団“美”、応援(学校・野球・サッカー)・組体操。小旗振る人々、この人に。

民主主義は市民(国民)が主人。憲法が権力(者)、この人を指導監督する。
市民(国民)の人権と平和が基調。72年前、主人は天皇＝天皇制だった。
明治政府と経済人、後に軍人がつくれたエピソード。実に過酷なエピソード。
天皇を神として描き、市民(国民)は赤子と“ラベル”を張るエピソード。
国家反逆罪(治安維持法)、不敬罪で戦争国家を完成させたエピソード。
北の国で国家反逆罪。廃人として強制送還後逝去した、あの国の若者。
北の国の機関誌で靴を乾かした不敬罪だとの報道も…。
72年前のこの国が、時空を超えて北の国で生きつづける。
72年後のこの国は、“笑顔”で北の国を批判はできない。
拉致被害者を救済できないこの国の現実が足元にある。
いじめ死・指導死・過労死・パワハラ死・虐待死・家族殺害
死・交通殺害死・自然災害死…累々この国の魂が叫ぶ。
すべてを個人の責任に帰する、この国の姿を直視しよう。



真面目に授業 in English

「与えられた」民主主義は、個人の責任で生き続ける、この国。
「与えられた」民主主義は、日本国憲法を市民(国民)のものにはしてくれない。
そう、人権、医療、教育、福祉、そして労働の権利は与えられるものでしかない、この国。
だから、納税、労働(勤労)そして教育の義務で市民(国民)を支配する、この国。



この人は、私たちの生活を守ってはくれない。
この人は、私たちの平和と経済のかじ取りはしてくれない。
そう！ この人はあの国に“隷属”しているのだから。
そう！ この人はあの国の“○人”になろうとしている。

この人は、私利私欲、権力の独裁者。72年回帰を妄想する人。
この人は、父と祖父への劣等感にふるえ、学びを放棄し72年回帰に溺れる人。
この人は、自虐を隠すため72年回帰の着ぐるみでバージョンアップを願う人。
でも、この人は心身ともに疲れ果てている。この人を解放してあげよう。
戦後史の劣等感をこの人に背負わせた輩からの解放を。
この人の解放こそが、市民(国民)による民主主義の獲得となる。
この人が、劣等感と自虐の“世襲”独裁者として崩壊する前に。
72年前、死者への哀悼と恒久平和を誓ったこの国だからこそ、
あの国や北の国に期待し、共に歩める“友”になるために。
何よりも、「与えられた」民主主義を僕たちの“もの”にするために！
格差と分断で苦戦する子ども若者の未来を拓くために！
与えられた慈悲や慰めでない、公平で平和な社会を築くために！

みんな違ってみんないい

台風迫る雨の中36人の方々が逗子市体育館第1会議室にお集まりいただきました。応援団会議会員の新舛秀浩さん新企画事業の第1弾です。準備段階から期待に胸を膨らませ待ちに待ったこの日、実に感動的で圧巻の岩室紳也さんのご講演でした。また新舛さんとの対談は至福の時間でした。キレイごととはほど遠い、自分ごととして語る誠意溢れるトークに感謝いたします。ありがとうございました。



岩室さんの講演では、「聴くことの学び(耳を傾ける)」「関係(今この時間も)が居場所」「すべての課題解決は“依存”にある。(依存の価値を再確認)」、だから「人と人、人間の関係の中に！私たちは」と共感しました。

岩室流、テンポのいい講演に肌触りは爽快でしたが…、音楽の歌詞と文字が重なって、頭の中は混乱でした(笑)。岩室流“異才”講演の賜物、頂きました。

新舛 vs 岩室対談では改めて「家族に依存する秘訣」から「自己開示の極意」、そして「素朴でありながら特異である新舛流」を実感しました。「『自分と違う考え方の人も認める』究極に、『みんな違ってみんないい』がある」と会場は実感したのでは…。不登校のお母さまの質問へ新舛さん「お母さんが楽しいことをしている笑顔に子どもはすくわれる！」とアドバイス、最高でした。終わって外に出ましたら、雨が止んでいました。講演会の奇跡(笑)でした。



感想 ○もやもやしている自分が自分で整理している私がありました。我が家の娘も不登校をしていました。子ども本人より親の同調圧力をすごく感じていました。親の私が選択する余裕がありませんでした。子どもも不安ですが、親の私自身が「みんな違ってみんないい」と言い切れませんでした。(60代女子 逗子市)

○居場所がない人や子どもが多いと思いながら聞き、種々の問題の根っちは心の居場所の不足、すごく納得しました。(60代女子 品川区)

○とても心に響く講演でした。人とのつながり、居場所の大切さを痛感しました。「助けて！」が言えること。それを受け止める関係性があることが生きることにつながることを改めて感じました。自分に何ができるか考えさせられました。(50代女子 逗子市)

○「自立は依存先を増やすこと」という言葉、わたしにとってとっても大事な宝のような響きを持ちました。(60代女子 逗子市)

○岩室先生の人間性を感じました。先生の考え方が社会に広がっていけばもっといい社会になりますね。(70代男子 逗子)

○色々なテーマに「根本的」なことが世間では抜け落ちているぐだりに共感しました。(40代男子 横浜市)



- 今日も自分が生きる、考えるきっかけができました。ありがとうございました。(50代男子)
- 来てみて良かった！ 人生「教育」がすっかり刷り込まれ、逃れられない自分がいたのですが、教育なんかでよくならない！ 本当だと思います。(60代女子 横須賀市)
- 人は人の中でしか成長できないと私は思います。人間は誰かに認めて欲しいと願う生き物だと思います。息子との関係を今一度見直したいと思います。(50代女子 横須賀)
- 私は一昨年亡くなった犬の写真に「おはよう」と毎日挨拶しています。(岩室先生)講演お忙しと思いますが御身体お気を付けてください。(50代女子 横須賀市)
- 小5の娘は最近「学校へ行きたくない」と言い出しました。勉強はできない、忘れ物が多く、だらしく。家ではテレビ、ゲームをやってばかりで、私は怒ってばかり。今日のお話を聞いて「スマホを取り上げることで問題は解決しないのでは」と気がつきました。娘の居場所づくりをがんばりたいです。良い時間、素敵な雰囲気でした。(30代女子 逗子市)
- 「いじめられているのはあなたに変なところがあるからだ」と片付ける教師や精神科医って？ 実際に起きたことです。とても傷ついたらと話してくれました。(20代女子大生 横浜)
- (親の質問で)不登校の生徒に対する新井さんのアドバイスがとても良かったと思います。対談でも大人を信頼できない若者の話題が面白かったです。(60代男子 逗子市)
- (26通感想を頂き回収率72%でした。全部紹介できずご容赦ください。)

それぞれの風 ○東京大学先端技術研究所 ROCKET 中邑賢龍Drが8月に著書を発行した。タイトルがふるっている。『育てにくい子は **挑発** して伸ばす』(文芸春秋 1300円+税)。“挑発”は一人ひとりの子どもの個性を十分理解した上でのことと理解できる。やみくもに“挑発”していたら“ヘイト”や“暴言”でしかない。育てにくい根拠はその子の中にねむる“特性・個性”だ、それを挑発するということ。更に親の誤解と無理解を捉えまたまた挑発。これこそが教育に問われる、子どもの未来に期待する“挑発”と理解、ご一読を。

○Largo(フリースペース)の女子会 & 男子会に参加している。既に半年前の5月“不登校解決市民サミット”を実施したが、当然のように不登校は「他人ごと社会」に置き去りにされたまま。「自分ごと」になってと願う！ そう！ 教育は義務ではなく権利なのだから。学びは日々の中にある。学校だけに、塾や習い事だけに預けてはいけない。家にも地域にもコンビニにも山海にも。そう！ 人と人の中には学びがある。合理的で身体的学びを願う、今。

- 11月予定** 10日(土)13:30～ 講演:西鎌倉民生・児童委員 in 腰越行政センター
- 11日(日)10～16時 参加:かながわ円卓会議 井手英策氏他 in 湘南国際村
- 14日(火)19時～ 委員:横須賀市教育委員会支援教育委員会
- 15日(水)19時～ 参加:竜馬没後150年 in 竜馬におまかせ
- 17日(金)19時～ 参加:アンカー(民間教員研修会) in 逗子市民交流センター
- 19日(日)14時～ **子ども若者応援団会議** in 横須賀市市民活動センター
- 29日(水)10時～ 講演:横浜市すすき野青少年指導員協議会 in すすき野コミュニティハウス
- 定例仕事場 ○深沢Largo(フリースクール):2(木)、4(土)、9(木)、18(土)、30(木)

○鎌倉市教育センター :1(水)、7(火)、14(火)、15(水)、17(金)、21(火)、22(水)、28(火)

○研究所でのご相談はお休みしています。**お問い合わせは受け付けております。**

発行編集責任者:滝田衛住所:鎌倉市七里ヶ浜東2-31-12

連絡先:090-7212-4055 メール:qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp